

令和元年11月20日

羽生市議会議長様

代表者氏名 さつき会 会長 丑久保恒行



令和会 会長 増田 敏雄



行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施したのでご報告いたします。

記

1. 視察日程 令和元年10月29日・30日
2. 視察項目 香川県丸亀市は、防災まちづくり活動について
高知県高知市は、全国市議会議長会研究フォーラム
3. 視察参加者 さつき会 丑久保恒之・松本敏夫
令和会 増田敏雄・江原博之・西山丈由
4. 視察概要

1) 香川県丸亀市（防災まちづくり活動について）

香川県丸亀市川西地区のコミュニティセンターを視察。「安心して住んでもらえるまちを目指して」を合言葉に、防災まちづくり大賞3冠を達成した地区であり、「防災日本一からまちづくり日本一」を掲げている地区である。地域づくり推進協議会会長であり、コミュニティ自治会長でもある岩崎会長、ほか多数の関係者の皆様が歓迎してくれ、特に、会長自ら説明してくれた。

2) 高知県高知市 会場 高知ちばさんセンター

全国市議会議長会研究フォーラム

全国から3,000人余りの市議会議長・市議会議員他関係者が参加。まず、最初に、主催者である全国市議会議長・大分市議会野尻会長の挨拶から始まり、各界の代表者の挨拶となる。

第1部基調講演に入る。「現代政治のマトリクスリーベラル保守という可能性」と題し、中島岳志東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の講演

から始まる。

その後、第2部においては、パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」と題し開催した。

コーディネーター 坪井ゆづる（朝日新聞論説委員）

パネリスト 高部 正男（市町村職員中央研究所学長）

横田 響子（株式会社コラボンボ代表取締役）

古川 康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋 剛（高知市議会議長）

以上

さつき会・令和会合同視察

さつき会 丑久保 恒行

■香川県丸亀市川西地区

◎防災まちづくり活動について

香川県丸亀市川西地区のコミュニティセンターを訪れた。「安心して住んでもらえるまちを目指して」を合言葉に、防災まちづくり大賞 3冠を達成した地区であり、「防災日本一から、まちづくり日本一」を掲げている地区である。

地域づくり推進協議会会長であり、コミュニティ自治会会長でもある岩崎会長、他多数の関係者の皆様が歓迎してくれ、特に、会長自ら説明をしてくれた。

新しいまちづくり体制の為、地域の各種団体を取りまとめ、1995年（平成7年）3月に地域づくり推進協議会は結成された。

発足当初は、新しいまちづくりって、いったい何をしたらいいのかはつきりせず、いろんなこと、あらゆることを幅広く活動していたようだ。その後、「方向性を持って、活動内容を何かに絞らないか」との発言がきっかけとなり、様々な提案が出る中、環境について取り組みましょうかとの話があったが、阪神淡路大震災と同年の立ち上げだった、この川西コミュニティ、まずは、地域の防災に力を注ぐのはどうかと、話し合いがまとまった。

そこで、2001年（平成13年）淡路島の北凡町や神戸市へ研修に行った。北淡町はまさに阪神淡路大震災の震源地のすぐ近く。消防団+自警団の高い防災意識と、普段からの住民の連携が功を奏し、寝たきりの家も把握していたので、比較的救出が早かったようだ。

昔から海の災害が多い地域だったからこそ、経験から学んでいた防災。こうして研修で学んだことはすぐに川西地区に持ち帰り、川西地区の防災活動の基盤形成に役立った。「いつ来るかわからない、南海トラフ大地震に備えて！」

そこで、映像を見ながら説明に入る。

防災への取り組み

1. 創設期（平成14年～平成18年）

- ・人材ウォッチング・・・人探し、特に女性
- ・意識改革

- ・形・・・ユニホーム
2. 躍動気 (平成19年～平成22年)・・・シフト1
- ・教育現場との連携
 - ・運営資金の確保
 - ・広域連携の始まり
- (平成19年～平成22年)・・・シフト2
- ・計画的・資機材の整備
 - ・防災まちづくり大賞へチャレンジ
 - ・要配慮者支援隊の発足
 - ※学校長が熱心に取り組んでくれた
 - ・すそ野が広がる
 - ・1世帯、1,000円もらう
 - ・神戸の社協事務局長の講話・・・感動
3. 充実期 (平成23年～平成26年)・・・シフト3
- ・連携の輪拡大 (企業・団体)
 - ・民間企業の協力あり (備蓄資材倉庫として)
 - ・福祉団体
 - ・東日本震災復興支援・・・がんばれ日本、がんばろう東北
 - ・4月2日～4日間 支援 (炊き出し) 石巻へ
 - ・賛助会員制度の導入
 - ・本格的備蓄のスタート
 - ・ライフライン対策の強化
 - ・25企業
 - ・発電機格納庫の確保 (3槽200ボルト 2基)
4. 成長期 (平成27年～現在)・・・シフト4
- ・熊本自身への支援活動
 - 9日間 8,000食 提供 (3泊4日 8人×3班)
 - ・災害用トイレの設置
 - 目的：避難所や家庭のトイレ使用
 - 不可能時の救済

- ・通学路ブロック塀の点検
- ・西日本豪雨の支援活動
 - (岡山県真備町へ7月から8月 延べ120人派遣)
 - 暑さと臭い 砂ほこり 家の中の泥
- ・地域防災計画の策定 関連死・・・多々
- ・避難生活向上施策 備蓄・資機材のストック
 - 3日間、アルファ米を食べたら問題あり・・・災害関連死
- ・備えをしっかりと行政が確認しておく必要あり

- ・県内自主防災組織の育成と支援
- ・福祉団体への防災ノウハウ提供
 - (今年11月 20団体へ指導・・・防災訓練)

継続のポイント

- ・女性の参画
- ・企業とのコラボレーション
- ・各種(賞)へのチャレンジ・・・地域が励みになる
- ・まちづくりの機関車
 - 自治会加入のV字回復
 - 活動効果は市から県へ
- ・リーダーは、率先垂範と気くばり
 - 細部までの気くばり、心くばり
 - 将来計画の策定と行動力
- ・次世代への引き継ぎ・・・後継者づくり、確保と育成
- ・企業(団体)連携の枠組み整備

感想

役員の皆様は、発足当時から関わっており、かつてはまだ若かった。しかし10年以上経過し、後継者にバトンを渡す時期が来ている。それでも、役員は夫婦で楽しんでいるよう見えた。

長い期間地域づくりに懸命となってきたことで、役員の皆さんの自尊心が感じられた。また、防災に対する知識がたくさん吸収でき、格好の視察研修となり、羽生市に還元できればと考えた。

さつき会・令和会合同視察

さつき会 松本 敏夫

■香川県丸亀市川西地区

◎防災まちづくり活動について

- ・川西地区は、人口 6,812 人で全国で防災に対する認識が非常に高い地域である。
- ・避難所の場所は、川西地区だけで公の場所 5 ヲ所 (2,000 人)、民間の場所 5 ヲ所 (1,600 人) を避難させる事が出来る。

◎川西地域でコミュニティ組織が取り組んでいる事業

1. 総務部 (19 名) 予算管理、替助会員 (25 社) と連携、高齢者配食サービス
2. 環境部 (8 名) 小学生の環境学習、河川や道路の環境維持
3. 人権部 (10 名) 小学校と連携した人権ポスター標語の作成
4. 福祉部 (19 名) 要配者 130 名への訪問活動 (毎月)
5. 保健部 (10 名) 健康診断の推進 (食生活への改善)
6. 体育部 (10 名) 各種スポーツ活動の推進
7. 青少年健全育成 (20 名) 防犯パトロール、農作業体験
8. 防災部 (20 名) 幼稚園、保育所、小・中校との防災研修、夜間避難訓練

■第 14 回全国市議会議長会研究フォーラム

場所・高知ちばさんセンター

基調講演

現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性

中島岳志 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)